

1	PDPフィルタを増産 日清紡	化学工業 12/9 468	日清紡はPDP用光学フィルターを増産する。現在月1万枚の生産設備を持つなか、新たに針崎工場に同5万枚の生産設備を建設する。現状の年間売上高25億円を、フル稼働を見込む3年後には100億円に引き上げる計画。
2	海外が好調でフル操業が続く 建機大手	日経産業 12/16 469	建機メーカー大手各社の国内生産拠点がフル操業を続けている。建設投資の低迷で国内建設機械市場が5年前の半分に縮小している中で、好調な海外向け製品・部品の生産に追われているためである。日本での生産が最もコストが安い
3	有機EL製造向けメタルマスク アテネ	日経産業 12/13 469	半導体の製造工程で使うメタルマスクなどを手掛けるアテネは、有機ELディスプレイ製造用のメタルマスクを量産する。月間300から500セットの生産を始めており、来春には2倍以上の同1,000セットに増やす。
4	コモンレール 欧州アジア増産 デンソー	日経産業 12/16 470	デンソーは排ガス中の有害物質を低減するディーゼルエンジン用燃料噴射システム「コモンレール」の世界生産を拡大する。2005年度は120万台と今年度見込み50万台の2.4倍に増やす。
5	2周波合成で焼入れを効率化 電気興業	日経産業 12/17 470	電気興業は2種類の高周波を合成して用い、金属部材を効率よく焼入れ加工できる装置を開発した。合成の仕方で加熱条件を自由に設定できる。従来方式に比べ、加工時間や設備のスペースを削減できる。
6	直噴型新V6を開発、燃費向上 トヨタ	日刊工業 12/18 471	トヨタ自動車は、直噴ガソリンタイプの新V型6気筒エンジンを開発、早ければ03年末にも投入が予定されている次期「クラウン」に搭載することを決めた。マークなどにもモデルチェンジに合わせ、新V6を搭載すると見られる
7	パソコンなど 中国で拡販へ ソニー	日刊工業 12/19 471	ソニーは中国でデジタル製品やパソコンの販売を強化する。ソニー製品を体験できる「ソニーデジタルショップ」を現在の6店舗から10店舗以上に拡大する一方、ノートパソコン「VAIO」の商品系列を増やす。
8	ローラチェーン 長寿命低コスト 杉山チエン	日刊工業 12/19 471	杉山チエン製作所(入間市)は表面処理方法に工夫を凝らすなどで強い荷重に耐えられるようにしたローラチェーンを発売した。長寿命化が図れ、従来品より30~40%のコストダウンになる。
9	ヒートシンクの薄膜加工 セクト化学	日経産業 12/20 472	断熱塗料製造のセクト化学は、秋田県立大学と共同でパソコン内部の熱を放出させるヒートシンクの冷却効果を高める技術を開発した。ニッケル系の薄膜で表面処理加工し、ヒートシンクの温度を下げ、放熱効果が8%向上する。
10	燃料電池を国内で発売 ハイドロジェニックス	日経産業 12/19 472	カナダの燃料電池メーカー、ハイドロジェニックスは2003年から燃料電池を国内で順次発売する。まず出力2キロ~10キロワットの小型の移動用を発売する。ディーゼル発電機の代替需要を狙う。
11	硫酸銅めっき用 光沢剤 ユージライト	日刊工業 12/20 472	荏原ユージライトは、硫酸銅めっきの作業時間を30%短縮できる光沢剤を発売した。同製品を添加すれば、従来より30~50%電流値を高めても焦げ付かず、短時間で必要なめっきの厚さが確保できる。
12	逆説の車づくり 燃料電池に頼らず我が道を行く	日経産業 12/24 473	トヨタ自動車とホンダが世界で初めて燃料電池車の市販に成功した。今や日本の自動車メーカーは環境や安全技術も含めて世界をリードするかに見える。だが、欧州自動車各社では独自のアプローチで車を進化させている。
13	マグネ加工基地 へ一步 三条・燕地区	日刊工業 12/20 473	新潟県が三条・燕地区をマグネシウムの加工基地にするため、7000万円の新品開発費支援と技術指導を行ってきたところ、12グループ・48社がマグネシウムを素材とした新製品を試作するめどをつけた。

1	マグネシウム 薄肉加工 日立金属	日経産業 12/20 474	日立金属はマグネシウムを厚さ0.4mmに加工できるプレス技術を開発した。マグネシウムは軽量だが加工が難しいため、部品メーカーには敬遠されてきた。同社はプレス機だけで薄い金属の表面に小さな突起まで作る技術を確立
2	放熱フィン能力 8割向上 古河電工	日経産業 12/24 474	古河電気工業は銅とアルミニウムを接合し、従来製品と比べて放熱能力を約8割高めた放熱フィンを開発した。サーバーやデスクトップパソコンに内蔵し、MPUから発生する熱を効率良く外に逃がす。
3	オゾン破壊ゼロ フッ素系洗浄剤 ダイキン	日刊工業 12/25 474	ダイキン工業はオゾン層破壊係数ゼロのフッ素系洗浄剤を発売する。光学レンズや液晶分野で製造工程時のリンス洗浄、蒸気洗浄、蒸気式乾燥用溶剤などに用いる。不燃性でリンス性に優れ各種材料との適合性がある。
4	PDP用電磁波 防止フィルム 住友大阪セメント	日本経済 12/25 475	住友大阪セメントはナノテクノロジーを使ったPDP用の電磁波防止フィルムを来年度から量産する。低コストの生産技術の開発に成功、商用化のめどがついたと判断した。ナノテク素材事業の売上高を拡大する計画。
5	焼却せずに ごみゼロを達成 富士通研究所	日経産業 12/27 476	富士通研究所は廃棄物を焼却せずに材料として再資源化するマテリアルリサイクルでごみゼロを達成した。研究機関は扱う化学物質の数が多く、埋め立て処分量を減らすのが難しい。
6	ｽﾌﾟﾙｯﾄを住友 電工に生産委託 椿本チェーン	日経産業 12/30 476	椿本チェーンは自動車エンジンの構成部品、焼結製スプロケットの生産を住友電気工業に全面委託する。椿本チェーンは生産設備を住友電工に売却する。チェーン部品に集中したい椿本と焼結製品を拡大したい住友電工の思惑が一致
7	建機出荷額11月 12.5%増 建機工業会	日経産業 1/1 476	日本建設機械工業会が発表した2002年11月の建設機械出荷額は前年同月比12.5%増の1036億円と2ヶ月連続で増えた。輸出が引き続き好調で国内は減少幅が縮小し、20ヶ月ぶりに1桁減だった。
8	基盤に回路印刷 製造コスト1/4 アルバックなど	日経産業 1/7 477	半導体製造装置のアルバックと印刷機メーカーのマイクロテックは、スクリーン印刷の手法で基盤に回路を形成する装置を開発した。ナノメートルレベルの金属粒子をペースト状にした材料をインクのように基板上に転写する。
9	ノートパソコン 全量国内生産 日本HP	日刊工業 1/8 477	日本ヒューレット・パカードは、パソコン事業をテコ入れする。今夏までにノートパソコンを全量、国内生産に切り替える。従来10日間前後を要していた納入期間を5日間に短縮する。これによりパソコン事業は100%国内生産
10	金属被覆粉体を 大幅増強 日本化学工業	化学工業 1/9 478	日本化学工業は、異方導電性フィルム向け金属被覆粉体で大幅な増産体制を整える。成長が続く液晶ディスプレイ関連向け需要増や、新規グレード数の拡充に込めることが狙い。
11	マグネシウム 部品事業を拡大 ヤマハファイテック	日刊工業 1/8 478	ヤマハファイテックはマグネシウム部品事業を拡大する。携帯電話のボディ用などに受注が急増しており、協力工場を含む月間の出荷能力を現在の80万個から03年夏までに5割以上引き上げる。
12	パソコン7日で 北米の店頭へ 富士通	日刊工業 1/10 479	富士通は、米物流大手のUPSと協力して、日本の工場から北米の家電量販店までのパソコン物流コストを、1台あたり約26ドルに抑えるサプライチェーンマネジメントを導入した。
13	EPIL機器部品 Mg合金で量産 カサタニ	日経産業 1/9 479	金型製造のカサタニはマグネシウム合金を素材に使い、モバイル機器用のカバーや内装部品を2003年3月から生産する。携帯電話やノートパソコンなどモバイル機器用の需要が増えると判断、量産化に踏み切る。

1	すべてアルミの パソコン筐体 東陽理化研	日刊工業 1 / 8 479	東陽理化学研究所はノートパソコンの筐体部分をすべてアルミニウム製にする技術を開発、パソコンの組立工程で発生する不良品の大幅低減に成功した。この技術に着目した米大手パソコンメーカーが中国での一部を振り替えた。
2	ノートPCのマ グネ再生実用化 富士通	日経産業 1 / 10 480	富士通は実際に使用済みパソコンから回収したマグネシウム合金を再生、2002年秋冬モデルのノートパソコンから採用をはじめた。富士通の計算では、マグネを採掘・精錬する場合に比べ、CO2換算の環境負荷が1/6になる
3	現地メーカー製 に切り替え トヨタ	日刊工業 1 / 15 481	トヨタ自動車は北米最大の生産拠点である米ケンタッキー工場で、05年をめどに大物内装部品の成形天井の生産を取りやめる。外注化を加速し、05年には全面的に現地部品メーカー製に切り替える。
4	理科離れ防止 ボランティア組織化 文部科学省	日刊工業 1 / 14 481	文部科学省は学生の理科離れ対策の一環として、理科や科学技術の理解増進活動を手掛ける地域ボランティアへの支援に乗り出す。理科や科学技術に明るい個人のボランティア活動家を地域ごとに組織化していく。
5	無粉塵の ケーブル結束器 椿本チエイン	日経産業 1 / 15 481	椿本チエインはロボットなど産業機械に使う油圧ホースや電線ケーブルを束ねる器具を発売した。プラスチック製で機械から出ているホースやケーブルが絡まないように束ね、低騒音で粉塵も出ない構造に改めた。
6	国内2工場閉鎖 1300人削減 日立ユニシア	日経産業 1 / 15 482	日立ユニシアは、国内グループ人員の2割削減を柱とする合理化計画を発表した。今月末に1300人の早期退職制度を実施し、年70億円の労務費を削減する。国内工場も2拠点閉鎖する。
7	ソニー独自の 環境監査、取引 先に立ち入り	日経産業 1 / 16 482	ソニーが国内外の部品・材料調達先を対象に始めた独自の環境監査がエレクトロニクス業界の注目を集めている。「リスク管理としては先進的」と支持する声がある半面、社員を工場に派遣して立ち入り調査する手法には反発もある
8	大型アルミ製品 専用無電解Ni 熊防メタル	日刊工業 1 / 21 483	熊防メタルは大型アルミ製品専用の無電解ニッケルめっきラインを導入した。製品最大処理寸法4000X3000X200mmのラインで、国内最大級。液晶表示装置などの大型化に伴う製造装置大物部品に対応するのが目的。
9	小型給水器、ボ トル差込お湯 ミロク	日刊工業 1 / 20 483	ミロクはミネラルウォーター入りPETボトルをそのまま差し込むだけで、熱したお湯と常温水が出せる小型給水器を発売した。1時間で4リットルの水を90度以上に加熱する能力がある。¥5800
10	電材など独自の 技術を発揮 日本化学工業	化学工業 1 / 20 483	新中期3ヵ年経営計画を昨年4月に始動させ、予測を上回るペースで高収益体質への転換を進めている日本化学工業。この成果を確実なものとするため早くも次年度の目標達成に全社員のベクトルを合わせる。
11	中小の雇用・ 景気対策に力 土屋知事	日刊工業 1 / 29 484	土屋埼玉県知事は現在編成中の03年度予算案編成にあたって、「埼玉県経済を支える中小企業の雇用・景気対策をはじめ、青少年の健全育成のための教育関連費や、高齢者・障害者支援に力を入れる」としている。
12	めっき排水など 効率処理 リキッドコンサント	日刊工業 1 / 27 485	リキッドコンサントは、キレート剤の混入で錯体となった重金属イオンや水中のシリカを除去するシステムを開発、発売する。めっき排水やシリコン含有水の再利用が可能になる。凝集沈殿法に比べ1/2以下のコストになる。
13	プレス成形用ガ ラス優秀新製品 住田光学ガラス	日刊工業 1 / 28 485	住田光学ガラスが開発した精密プレス成形用光学ガラスが、米国の光技術専門誌選定による優秀新製品賞に選ばれた。従来より50度低い325度で成形でき、プラスチック射出成型並みの金型で成形できる点が評価された。

1	超撥水性電気めっき用途開拓 清川メッキ	化学工業 1 / 2 9 486	各種機能性めっきを手掛ける清川メッキ工業は、無電解めっきと比べ、約2/3の低コストで水滴がほとんど立脚状態となる超撥水性電気めっきの本格的な用途開拓に乗り出す。
2	構造改革で鋳物事業から撤退 日立工機	日刊工業 1 / 3 1 486	日立工機は早期退職優遇制度の実施、鋳物事業からの撤退などを柱とする構造改革を発表した。鋳物事業を手掛ける連結子会社の日立工機原町を、17人の社員を含め事業を年度末までに譲渡する。
3	油圧ショベルの超低騒音タイプ コベルコ建機	日刊工業 1 / 3 1 486	コベルコ建機は後方超小旋回油圧ショベルを発売した。新型エンジンは出力110kWと従来機比3%向上し、日欧米の排ガス2次規制に対応、国土交通省の超低騒音建設機械の認定値もクリアした。
4	バイオ独り負け 低価格化見誤る パソコン10-12	日刊工業 1 / 3 1 487	主要パソコン各社の02年度10-12月期決算で、「バイオ」独り負けの構図が浮き彫りになった。「高付加価値路線を変えずに、低価格化の流れに追随しなかった」結果、期待していた年末商戦が不発に終わった。
5	新パチスロ機に 大画面LCD アルゼ	日刊工業 2 / 3 488	15インチの大型液晶モニターを搭載したパチスロ機がお目見えする。アルゼの新パチスロ機「花火百景」がそれ。映像表現力が格段に向上し、他社製品と差別化できることから、戦略機種としてシェア拡大を図る。
6	国内5工場を再編 本社機能移管 ファインスター	日刊工業 2 / 4 488	ファインスターは03年度に国内グループ5工場を再編する。増産対応と生産効率化が狙い。春日井工場に新事務所棟を建設、本社機能を現在の川越工場から移管する。一貫生産体制を構築して生産性向上に対応する。
7	勝ち抜く企業 技術を磨く人 山本科学工具研	日経産業 1 / 3 0 488	組み立てや品質管理など製造現場で、「硬さ」を測る場面は多い。山本科学工具研究所は、硬さの「基準」を作り出す世界唯一の専門メーカー。国内シェアは100%に近い。親子3代で築き上げた技術力が製造業の基礎を支える
8	携帯端末が米で 急拡大、パソ ファイザーなど	日経産業 2 / 5 489	米国の大企業などが情報処理システムのモバイル化を加速している。営業の現場だけでなく、様々な部門でモバイル環境を整えることが生産性を高めると判断。大規模なIT投資は冷えたままだが、モバイル投資は拡大傾向にある。
9	音の静かなデスク トップパソコン NEC	日刊工業 2 / 5 489	NECは「木の葉の触れあう音」程度の静音化を実現した低価格デスクトップパソコンを限定700台で発売する。騒音の発生源となる排熱用のCPUファンや電源ファンを搭載していないほか、静音タイプの流体軸受けHDD採用
10	自動車用緩衝器 中国に生産拠点 カヤバ工業	日経産業 2 / 4 489	カヤバ工業は中国・江蘇省に自動車用緩衝器を生産・販売する新会社を設立。来年1月に生産を始める。日系自動車メーカーの現地生産の拡大に対応し、中国市場での部品供給体制を整える。
11	金属粉末射出成形の最近の動向 と今後の展開	日刊工業 2 / 6 490	金属粉末射出成形技術、MIMの市場規模は、全世界では400億円規模と推察され、発展途上の産業といえる。わが国でも確実な成長を遂げており、今後の「素形材技術の旗手」として期待と注目を浴びている。
12	極薄金属を連続 プレス加工製造 いわきファインテ	日刊工業 2 / 7 490	いわきファインテクノロジーは、精密プレス加工により、家庭用アルミ箔の薄さに匹敵する18μmの極薄金属を連続製造する技術を開発した。穴開けも直径10μmまで対応できる。
13	小学校に理科実験を出前 バイエル	日経産業 2 / 9 491	独バイエルグループの日本法人バイエルは、小学校を訪問して理科の実験をするボランティアを始める。廃棄油から石鹼を作ったり、熱気球を飛ばす実験などを通じて、子供たちの好奇心を高め、科学の理解力向上に役立てる

1	裾野広げるパチンコ産業、情報武装化急ピッチ	日刊工業 2 / 7 491	パチンコ台の大幅な基準変更によるブーム再来の期待感、東京や静岡、熱海など各地で持ち上がるカジノ待望論、さらに他の業界同様、不況下で変貌する遊戯台メーカーやパチンコホールなどの構造変化などの業界課題を追う。
2	全工場ゼロエミ前倒し達成 京三電機	日刊工業 2 / 7 491	京三電機は全工場ゼロエミッションを達成した。すべての職場から発生する廃棄物を調査、分別表を作成、職場ごとに低減目標を掲げた。特に樹脂廃棄物梱包、汚泥、廃油に対しては再資源化プロジェクトを編成し、3年前倒し達成
3	サミーとセガ事業統合 合併方式が有力	日刊工業 2 / 14 492	サミーとセガは13日、10月1日をめどに事業統合することで基本合意した。サミーのパチンコ・パチスロ事業、セガのゲーム事業を統合することで、「世界の総合エンターテインメント企業としてのプレゼンス確立」を目指す。
4	裾野広げるパチンコ産業、進む新基準機シフト	日刊工業 2 / 14 492	02年秋、メーカー各社から登場した新基準機。時短機能搭載などによりゲーム性を高めた新基準機が年末・年始のパチンコ繁忙期を境にホールの主役となりつつある。パチンコホールの多くは中心遊戯台を新基準機に置き始めた。
5	ノースから技術導入、基板開発 ソニーケミカル	日経産業 2 / 13 492	半導体の実装技術を手掛けるノースは、プリント基板多層接続技術「NMBI」をソニーケミカルに技術供与すると発表した。ソニーケミカルはNMBIをもとに、新しいプリント基板を開発、今秋から携帯電話向けなどに量産開始。
6	軽量のマグネ合金、性能向上 アーレスティ等	日本経済 2 / 14 493	長岡技術科学大学の小島教授らとダイカスト大手のアーレスティなどは、耐熱性が高く、加工しやすいマグネシウム合金を開発した。自動車材料に使われているアルミニウム合金などの代替材料として有望。
7	塩型で金属製の試作品を作製 大阪産業大学	日刊工業 2 / 13 493	大阪産業大学の丸谷教授は、積層造形法による金属製試作品の型材に塩を用いる塩型技術の開発に成功した。塩型は製造コストが低く、後処理も洗い流すだけと容易、完成した試作品は滑らかに仕上がり、複雑な形状にも対応できる。
8	半導体検査機器用コンタクトシート 大日本印刷	化学工業 2 / 17 494	大日本印刷は、半導体チップ検査用ソケットやモジュール製品の検査機器に使うコンタクトシート市場に参入する。被試験チップの電極を最短距離で確実に検査機器に接続できる導電性ゴムペーストを使ったコンタクトシートを開発
9	水中酸素除去能力7.5倍に タクマ	日経産業 2 / 14 494	タクマはボイラーや配管の腐食を防ぐため窒素を使って水に溶ける酸素を除去する装置の大型化に成功した。窒素を水中に注入する方法を改良し、1時間当たりの処理能力を従来の7.5倍の15トンに高めた。
10	有力金型メーカーと協業で対応 マルスン	日刊工業 2 / 19 495	静岡県のマルスンは、富士テクニカなど国内有力金型メーカーと協業体制を組み、大型金型の受注に乗り出した。1社だけでは応じきれない短納期の大型受注に協業して対応するのが狙い。
11	噴射圧2200気圧燃料噴射システム デンソー	日刊工業 2 / 19 495	デンソーは06年をめどにディーゼルエンジン用のコモンレール式燃料噴射システムで、噴射圧を2200気圧程度まで高めた第3世代のシステムを投入し、優位性の維持を狙う。
12	野球をモチーフに スピード感演出 アルゼ	日刊工業 2 / 20 495	アルゼは個性豊かなキャラクターによるスピード感あふれるリーチアクションを繰り広げる、パチンコ新機種「CRパワフル球ちゃん」を下旬から発売する。野球をモチーフに液晶アクションが始まる。
13	科学の面白さを 高校に出前実験 吉野電化工業	日刊工業 2 / 19 496	化学の実験の面白さ、楽しさを味わってもらいたい・・・と、めっきなどの表面処理加工を手掛ける吉野電化工業はこのほど、埼玉県三郷市の埼玉県立三郷工業技術高等学校で「めっきの出前実験」を行った。

1	環境監査のモデルに調達先監査 ソニー	日刊工業 2 / 19 496	ソニーが調達先に実施している監査が業界の関心を集めている。従来のような品質管理の一貫として行うものではなく、チェックを化学物質の管理状況に絞っているのが特徴。同社の監査スタイルが環境監査のモデルになる可能性もある
2	直噴エンジンとCVTの組合せ ダイハツ	日刊工業 2 / 20 496	ダイハツ工業は直噴エンジンと無段変速機(CVT)を組み合わせた低燃費軽自動車の開発に乗り出す。また手動変速機車で既に実用化したアイドリングを自動停止するシステムのCVTやAT向けタイプの開発にも着手した。
3	ユニシア買収で足固め 日立	日刊工業 2 / 21 497	02年4月、日立製作所は日産自動車系の自動車部品会社ユニシアジェックスを100%子会社にすると発表した。「自動車は今や情報伝達機器。中核事業として大きく発展させたい。」と、自動車機器事業の将来性の高さを力説。
4	マグネシウム合金圧延板量産 住金直江津	日経産業 2 / 26 498	住友金属のステンレス加工子会社、住友金属直江津は、マグネシウム合金の圧延板を高品質で作れる量産技術を確立した。合金の溶解から圧延加工まで一貫した生産体制を整え、今春にも量産を開始する。
5	ブレーキ部品の生産能力3割増 トキコ	日経産業 2 / 24 498	日立製作所系のトキコはタイでブレーキ部品の生産を拡大する。現地工場の組み立てラインなどを増強し、生産能力を3割程度引き上げる。タイでは日系自動車メーカーを中心に世界の自動車各社が増産体制を整えている。
6	パチスロ機テーブル型投入 オーイズミ	日刊工業 2 / 24 498	オーイズミは、米国ラスベガスのスロットマシンをイメージした新タイプのテーブル型スロットを市場投入する。パチスロメーカーでは初めて。従来のパチスロ機とは一線を画したテーブル型スロットで新規ユーザーを獲得する
7	表面熱処理事業を拡大 日本パーカ	日経産業 3 / 7 499	日本パーカライジングは米国で自動車部品などの表面熱処理事業を拡大する。このほど現地の中堅部品加工メーカーを買収、年内に新型装置を導入し、加工能力を全体で5割高める。日本の自動車部品メーカーの需要拡大に対応する。
8	中古建機需要2.2%増 海外向け伸びる	日刊工業 2 / 28 499	日本建設機械工業会がまとめた2001年度中古建設機械の流通量調査によると、国内で発生し国内外に流通した中古建機は前年度比2.2%増の93955台となった。3年連続で前年度を上回り、海外での需要が全体を引っ張った。
9	携帯電話機向け塗料を委託生産 カシュー	日刊工業 2 / 27 499	カシューは携帯電話機向け塗料を米国で現地生産する。米塗料メーカーのカルコアコーティング社に生産を委託し、「カシュー」ブランドで今夏から米国の携帯電話機メーカーに販売する。
10	新栃木工場稼働 携帯キーパッド ポリマテック	日経産業 3 / 3 499	ポリマテックは新栃木工場を3月1日稼働する。当初4月以降の稼働予定で建設を進めていたが、携帯電話のキーパッドなどで需要が旺盛なことから前倒しを決めた。主力の福島工場もフル生産となっている。
11	圧延銅箔の出荷急進、FPC用 日立電線	化学工業 3 / 3 500	日立電線の圧延銅箔の出荷量が急増している。多機能携帯電話向けのFPC(フレキシブルプリント配線板)向けが絶好調なため、今年度上期は、前期比50%を超える大幅な出荷増となっている。
12	L-COPの熱特性を大幅向上 日立電線	化学工業 3 / 4 500	日立電線は半導体デバイス用の銅系ヒートシンク材[L-COP]の熱特性を大幅に改善した。低コストで加工しやすいというL-COPの特徴に熱特性面でも優位性が加わることから、一層の普及を図っていく。
13	めっき設備を中国で販売 名古屋メッキ	日経産業 3 / 4 500	めっき加工の名古屋メッキ工業は中国メーカーと組んで、中国でめっき加工設備の販売・施工事業に乗り出す。日系自動車部品メーカーなどからめっき設備の引き合いが強まっているのに対応。

1		
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		

1	排熱使う熱発電 素子発電機開発 フェローテック	日経産業 3 / 6 501	磁性流体応用製品のフェローテックは火力発電所の排熱や自動車のエンジンから出る熱を活用する発電機を開発する。熱発電素子は熱すると電気を発生し、300 の高温にも耐えられる。2, 3年後の商品化を目指す。
2	カメラ搭載パチ ンコ台 平和	日刊工業 3 / 14 501	平和はパチンコ台にカメラを組み込んだ業界初の「神龍物語」を発売する。新製品は液晶の上部に搭載した独自カメラの「パチショット」で、プレイヤーの顔を液晶画面に映し出せるのが特徴。
3	超小型ノート パソコン ソニー	日刊工業 3 / 14 501	ソニーは本を読む感覚で操作できる超小型ノートパソコン「バイオU」を発売する。本体カラーは黒を基調とした。ワイヤレスLANを搭載したほか、強い太陽光の下での視認性を高めた液晶ディスプレイを搭載。
4	めっき事業で 新規領域を拡大 日本高純度化学	化学工業 3 / 5 501	日本高純度化学は、既存の半導体パッケージ用金めっきに加え、携帯電話用マザーボード、デジタル家電製品向け機能めっきなど、新規領域の拡大に一段と力を注ぐ。
5	トウモロコシ 環境新素材に カネボウ	日経産業 3 / 13 502	カネボウはトウモロコシのでんぷんを原料とした素材「ラクトロン」の用途開発を進める。従来の衣料品に加え、ごみ収集袋や、魚箱の製作に成功した。環境保全に取り組む地方自治体などへ、自然循環型素材として売り込む。
6	粉体微粒子のコ ーティング技術 ユータック他	日刊工業 3 / 17 502	富山大学の阿部助教授は、真空機器製造のユータックと共同で、多角バレルスパッタリング装置を用いて、マイクロメートルレベルの粉体微粒子の一粒一粒の表面に均一にコーティングする技術を開発した。
7	環境対応フッ素 系洗浄剤 カネコ化学	化学工業 3 / 19 503	フラックスや油脂の洗浄剤を手掛けるカネコ化学(越谷市)は、特殊なフッ素系溶剤をベースに低毒性かつオゾン破壊係数もきわめて小さい次世代タイプのフッ素系洗浄剤を開発、電子基板や精密部品などの洗浄用途に展開を始めた。
8	樹脂交換不要の 純水製造装置 東洋紡エンジ	日経産業 3 / 19 503	東洋紡エンジニアリングはイオン交換樹脂の交換が不要な純水製造装置を開発した。電気処理で樹脂からイオンを剥がして排水、樹脂を何度でも再利用できる。大学や病院、中規模工場向けに200万円で発売する。
9	金属、プラに 直接接着 ダイキン	化学工業 3 / 26 505	ダイキン工業は金属やエンブラなどの他素材への直接接着を可能にするフッ素樹脂の開発に世界で初めて成功した。耐薬品性、耐候性といったフッ素樹脂の特性を損なうことなく他素材との複合成形や貼り合わせが出来る。
10	液晶パネル事業 導光板に集中 エンプラス	日経産業 3 / 26 506	エンプラスは5月をめぐりに液晶パネル事業をバックライト部分の中核部品である「導光板」に絞り込む。導光板の供給量を3倍に引き上げ、一方、これまで手がけていたバックライトユニットの販売からは撤退する。
11	上海にめっき 加工販売 フェローテック	日刊工業 3 / 31 506	フェローテックはめっき加工の薄衣電解工業と共同で、中国・上海にめっき加工の販売管理会社を設立する。フェローの上海工場で手がけるめっき加工の事業拡大が狙い。
12	試作品の受託 中小スクラム 福島の11社	日経産業 3 / 28 506	福島県内の中小企業が集まって、新製品の試作や量産を請け負う団体「エジソン倶楽部」を設立した。電子部品や機械製造など11社で構成し、県内の幅広い製造業に参加を呼びかける。
13	クレーン中小型 中国で生産 日立住重建機	日刊工業 4 / 3 507	日立住友重機械建機クレーンは、来年中をめぐりに中国でクレーン生産に乗り出す。更新需要が見込まれる50トン以下のホイールクレーンやクローラークレーンが対象で、夏ごろに工場用地を決定する。

1	生産体制を再構築、福島に新棟 天昇電気	化学工業 6 / 17 508	天昇電気は生産体制の再構築を始める。その一環として、産業資材関連の拠点である福島県の矢吹工場に新工場棟を建設する方向で検討に入った。同社は埼玉工場自動車部品関連を拡大していく方針を掲げており、生産体制を整える
2	充水バタフライバルブ拡販 クボタ	日刊工業 6 / 17 508	クボタの充水バタフライバルブが、発売から1年間で約100台の販売実績を上げて順調な滑り出しを見せている。弁体に設けた長穴が一定水量を維持しながら充水を行う。
3	PHS、中国で急成長。特需、外資系にも波及	日刊工業 6 / 17 508	中国の急成長で盛り上がったPHS特需が外資系半導体メーカーにも波及している。中国への輸出で活況を呈しているPHS基地局メーカー向けに各種半導体の販売が拡大、各社とも思わぬ恩恵にホクホク顔。
4	パソコン電磁波傍受防止へ指針 セキュリティ技術研	日経産業 6 / 18 509	情報通信関連の企業などで作る、新情報セキュリティ技術研究会は、パソコンなどから漏れ出る電磁波の傍受による情報漏洩などを防ぐためのガイドラインを作成した。情報機器や建物などに施すべき対策や基準を03年度中に決定
5	関東4事業所で夏場ピーク時節電 富士ゼロックス	日経産業 6 / 17 509	富士ゼロックスは夏場の電力需要ピーク時に電力不足の恐れがある関東圏の4事業所で、停電回避に向けた節電対策を実施する。氷蓄熱システムや蓄電システムを導入し、夜間電力を有効利用する。
6	PE製遮水シート PVC並高比重 三菱化学	化学工業 6 / 20 510	三菱化学MKVは高比重の直鎖状低密度ポリエチレン製遮水シートを開発した。水及び海水に沈む新タイプのPEシートで、PVCシートと同等の広範な用途に展開できる。
7	マグネシウム板 プレス量産加工 サンキ	日刊工業 6 / 20 510	サンキはマグネシウム板をプレスで量産加工する業界初のプレス加工技術を開発した。加工時にひび割れなどが生じるマグネシウムの特性に対し、金型内で同材を加熱して加工する独自の型技術や制御技術を確認することで実現
8	20インチ透明液晶を開発 アルゼ	日刊工業 6 / 19 510	アルゼはディスプレイの大きさが20インチのフルカラー透明液晶の開発に成功した。既に従来約2倍の15インチ透明液晶を搭載したパチスロ機を発売しているが、液晶の大型化で他社製品と差別化する。
9	特定有害物質 05年に全廃 松下	日刊工業 6 / 20 511	松下電器はグループ全体で05年4月の出荷製品から鉛や水銀、カドミウムなど6種類の特定有害物質の使用を全世界で廃止すると発表。EU15ヶ国が06年7月から使用禁止を義務付けるローズ指令に1年前倒しで対応する。
10	金属粉末成形で新素材 MJAインター	日刊工業 6 / 20 511	MJAインターナショナルは神奈川県産業技術総合研究所と共同で、焼結後には1100度でもほとんど変形しない耐熱性がある金属粉末射出成形(MIM)用素材を開発した。焼結時の縮小変形もきわめて小さく、応用展開が期待できる。
11	高機能ヒンジ 新規顧客を開拓 ストロベリー	日刊工業 6 / 25 512	ストロベリーコーポレーションは米国市場開拓のため、米ハルバーRTS社と販売代理店契約を締結した。主力製品のヒンジなどを広範な業種業態の新規顧客に売り込む狙い。関連事業で初年度1億円の売上を見込む。
12	マグネ合金用射出成形機 日本製鋼所	日経産業 6 / 20 512	日本製鋼所はマグネシウム合金用射出成形機の販売を03年度は前年度比6割増の40億円程度に拡大する方針。国内需要は振るわないが、パソコンや家電製品の生産が増えているアジア地域での売込みを強化し、目標達成を目指す。
13	MIM事業拡充 材料の設計開発 大阪冶金興業	日刊工業 6 / 25 512	大阪冶金興業はMIMの原料となる直径数10マイクロメートルの金属粉末を製造する不活性ガスアトマイザーを三木工場に導入し、合金の設計など材料開発に乗り出した。売上を15000万円から5年後に45000万円を目指す。

1	PETフィルムにナノ薄膜加工 帝人デュボン	化学工業 6 / 2 7 513	帝人デュボンフィルムはPETフィルム表面にナノメートルオーダーの超精密薄膜を形成させるコーティング加工設備を新設する。従来のスパッタリング製法と同等の精密薄膜形成が可能。
2	5月建機出荷額 国内2.4%増 建機工業会	日経産業 6 / 2 7 513	日本建設機械工業会がまとめた5月の建機出荷額は前年同月比16.0%増の950億円と8ヶ月連続で前年実績を上回った。好調な輸出に加え国内も2ヶ月連続で増加した。国内は2.4%増の416億円だった。
3	極小の穴を 均一めっき 電化皮膜工業	日刊工業 6 / 2 4 513	電化皮膜工業はプリント基板などに開いた直径70μmの極小の穴の内側を均一にめっき処理する技術を開発した。電気の周波数を微調整しながら、真空装置の中の液中でめっき処理することで微細穴の奥まで処理が可能となった。
4	スピーカー用 マグネ振動板 東北パイオニア	日刊工業 7 / 1 514	東北パイオニアは金属圧延・プレス成形のモリテックと共同で、0.05mm厚の超薄型マグネシウム成形技術と防錆処理技術を用いて、超薄型マグネシウム振動板を開発した。
5	カワサキ流 スズキも学ぶ 期間工を活用	日経産業 6 / 3 0 514	仕事量は年間で平準化したほうが生産効率は上がるはずだが、あえて理論を無視。従業員も同工場内の産業用ロボットや小型エンジンの生産ラインと相互に補う体制にし、足りない分は期間工で埋める。
6	静音型の液晶 プロジェクター 日立	日経産業 7 / 1 514	日立製作所は騒音の小さい液晶プロジェクターを8月に発売する。会議室での使用を想定して「静音化」モードを備えた。ファンの構造などを改良し騒音を抑えた。1200ANSIルーメン、145000円
7	めっき水洗槽の 水量自動制御 神谷理研	日刊工業 7 / 2 515	神谷理研は浜松工業技術センター、沼津高専と共同で、銀などの貴金属めっき処理ラインの水洗槽の水量を自動制御するシステムを開発した。排水を4割減らせる効果を実証、今後、自社に本格導入し環境対応を進める。
8	ナノテクと 電気化学を融合 早稲田大など	日刊工業 6 / 2 5 515	早稲田大学理工学部の逢坂教授らは、秋田高度技術研究所、物質・材料研究機構と共同で、ナノ界面制御技術を駆使した1テラビット級磁気記録材料の創製とプロセス技術開発に着手する。ナノ制御電気化学プロセスなどをベースにする
9	二輪用の燃料噴 射装置全車種に ヤマハ	日経産業 7 / 3 515	ヤマハ発動機は二輪車の排ガス中の有害物質を減らす効果のある燃料噴射装置を2007年中に全車種に採用する。装置の小型化を進めており、従来は難しかった低排気量車種への搭載に目処をつけた。
10	幅が5割広い 圧延銅箔量産 日鉱マテリアルズ	日経産業 7 / 4 516	日鉱マテリアルズは従来より幅が約5割広い圧延銅箔の量産技術を開発した。電解銅箔は柔軟性が圧延銅箔の1/4程度しかないため、携帯電話などの素材として、折畳式を中心に圧延銅箔へのシフトが進んでいる。
11	ホームページで めっき情報発信 ヒキフネ	日刊工業 7 / 8 517	めっき処理のヒキフネは営業ツールとしてホームページを積極活用する。これまで半年に一回程度しかリニューアルしていなかったのを毎週更新に改め、最新情報を盛り込み画面構成も見直す。
12	銀の変色防止剤 水溶性を発売 大和化成	日刊工業 7 / 1 0 517	大和化成は銀の変色防止剤を発売した。水溶性で重金属や有機溶媒を含まず、金属表面の接触抵抗やハンダの濡れ性にも影響を与えない。銀や銀合金、銀メッキやめっき素地の銅にも変色防止効果がある。
13	粒径1μmの 金属粉末 日本アトマイズ	化学工業 7 / 4 517	日本アトマイズ加工は水アトマイズ法による粒径2.5μmの銅粉、銀粉では業界トップ。最近では粒径1μmの銅粉、銀粉の開発に世界で初めて成功し、高付加価値化戦略を一段と強化している。

1	界面活性剤を 拡販へ エアロージャパン	化学工業 7 / 7 518	エアプロダクツジャパンは界面活性剤事業拡大の一環として、主力製品の界面活性剤「サーフィノール」シリーズの新規用途開拓を進める。泡を立てずに濡れ性を改善できる製品の特長を生かし、水性処方用途への拡大を図る。
2	モバイル端末 筐体用樹脂事業 岸本産業	化学工業 7 / 11 518	岸本産業の合成樹脂事業におけるソリューションビジネスが拡大している。同社は国内外企業との連携によって、ニッケルの電気めっき厚膜加工を施したモバイル型ノートパソコン筐体用樹脂の供給を行っている。
3	インクジェット技術を 回路基板製法に エプソンなど	日経産業 7 / 7 518	セイコーエプソンはKOA、回路基板製造のイースタンと共同で、インクジェット技術を用いた回路基板製造技術を共同研究する。数ナノメートルの金属粒子を有機溶剤に分散させた金属インク、ヘッド機構、表面処理を研究する。
4	クロムフリーディスコ 処理本格化 パーカー加工	化学工業 7 / 15 519	パーカー加工は、椿本チエインと日本ラスパートが開発したクロムフリーの耐食加工技術「ディスコ処理法」を導入、このほど千葉工場内に月間数百トン規模のコーティング処理体制を整えた。
5	トラック工場 2直に変更 いすゞ	日経産業 7 / 15 519	いすゞ自動車は藤沢工場の勤務体制を昼だけの一直から昼夜勤の二直に切り替えた。10月のディーゼル車排ガスの規制強化に伴って買換え需要が盛り上がり、生産が追いつかない状況が続いているのに対応する。
6	3価クロムで 耐久性めっき ヒキフネ	日経産業 7 / 15 519	めっき加工のヒキフネは従来よりも耐久性を高めた黒色系の装飾めっき加工サービスを始めた。3価黒色クロムによるめっきで、デジタルカメラや携帯電話の装飾向けの用途を見込む。
7	電位差利用 消臭装置を量産 サトカンパニー	日刊工業 7 / 16 520	サトカンパニーは異種金属間の電位差で発生する微弱電流のマイナスイオン効果による消臭装置の量産に乗り出した。消臭効果自体には電力などのエネルギーが不要で、扱いも簡単な利点が受け、外食店、パチンコ店から受注がある
8	硬質めっきと電 解剥離で刃再生 東京大学	日刊工業 7 / 18 520	東京大学生産技術研究所は切削工具の切れ刃を簡単に再生する手法を開発した。母材表面に硬質めっきで製膜して使用、磨耗したら電解剥離して再びめっきする。従来に比べて大幅な時間・コスト削減が期待できる。
9	鉄道にも燃料 電池、模型で 近畿車輛	日経産業 7 / 16 520	近畿車輛は燃料電池などのクリーンエネルギーを利用した鉄道車両の研究・開発に着手した。今年度内に基礎データを収集し、実用化に向けた計画をまとめる。高出力が必要な鉄道車両での実用例はないという。
10	燃料電池セル 薄膜塗布装置 蒲田製作所	日刊工業 7 / 18 521	蒲田製作所は燃料電池セルを構成する陰極層や陽極層、中間層の薄膜を手作業で形成できる塗布装置の開発にめどを付けた。企業の研究機関や大学などの試験市場に的を絞って、11月に製品化する予定。
11	融点が低い 無鉛はんだ 日本油脂	日経産業 7 / 18 521	日本油脂は従来品より融点が約30度低く、プリント基板など電子部品にも使える無鉛はんだを開発した。亜鉛を活用し電子部品の耐熱温度に収まるようにした。欧州の規制などに対応、代替品需要を開拓する。
12	中国に負けない セル生産導入 友電舎	日刊工業 7 / 24 522	金属表面処理の友電舎はめっき工程にセル生産方式を導入、中国に負けない低コスト化とともに、不良率で現状の1/100にあたる0.00001%を目指す。工場の人員をめっき作業に専念する技術者とライン管理者に分ける。
13	バイオで水素を 連続製造 シャープなど	日刊工業 7 / 25 522	地球環境産業技術研究機構(RITE)はシャープと共同で、バイオ技術を用い水素を連続製造する装置をRITE内に完成、8月から実証運転に乗り出す。常温常圧で有機化合物から大量の水素を取り出す技術。

1	商談でも威力 学の実証データ セクト化学	日経産業 7 / 25 523	断熱塗料製造のセクト化学はパソコン内部の熱を効率的に放出させる特殊な加工をしたヒートシンクの量産を準備している。秋田県立大学の協力を得て、放熱効果を実証できたため商品化にこぎ着けた。
2	プロジェクター 量販店4割拡大 プラスビジョン	日経産業 7 / 29 524	プラスビジョンはプロジェクター事業で家電量販店の取引先数を年内に4割増やす。これまでの法人中心の営業戦略を転換し、低価格製品の品揃えを増やして、一般家庭の需要を掘り起こす。
3	プロジェクター 中国シフト拡大 電機各社	日本経済 7 / 29 524	電気機器メーカー各社はプロジェクターの製造コストを引き下げる。NEC子会社は10月に中国生産を一括管理する新会社を設立、現地での資材調達を一元化する。プラスビジョンは中国生産を拡大、今秋安い新製品を発売する。
4	建機向け油圧機 器の生産増強 加増プレジジョン	日経産業 8 / 1 525	川崎重工業の油圧機器製造子会社、カワサキプレジジョンマシナリは建設機械向け油圧機器の生産体制を増強する。油圧モーターなどの主要部品の加工機械を増設し、派遣従業員を約4割増員する。
5	夏休み化学実験 教室開催 BASFジャパン	化学工業 8 / 1 525	BASFジャパンのキッズラボ「夏休み化学実験教室と工場・研究所見学会」が四日市事業所で開催された。四日市在住の親子40組が参加、おもしろ化学実験など化学の楽しさや不思議さに触れながら夏休みの一日を過ごした。
6	ボッシュの駆動 系部品事業買収 豊田工機	日経産業 7 / 31 525	豊田工機はボッシュオートモーティブシステムの駆動系部品「トルセン」事業部門を買収する。同事業を手がけるボッシュ子会社2社を含む買収額は100億円超の見通し。駆動系部品の品揃えを拡充して同事業を強化する。
7	営業黒字に転換 5月期連結 メルテックス	化学工業 8 / 1 525	メルテックスの5月期連結決算は営業損益が2億500万円の黒字に転換した。売上高は減少したが、業務の効率化や原材料費削減などによるコスト削減が寄与した。経常利益は前期比8.2倍の2億4000万円。
8	樹脂めっき部品 再利用システム 出光テクノなど	化学工業 8 / 6 526	出光テクノファイン、柿原工業、荏原ユーザライトの3社は、共同で「樹脂メッキ部品リサイクルシステム」の販売を開始する。微粉化技術で樹脂と金属を分離、リサイクル一貫技術を確立した。荏原ユーザライトが営業窓口となる
9	ヒンジ開発競争 携帯電話用過熱 二つ折需要促進	日刊工業 8 / 7 527	携帯電話の形は、現在二つ折りタイプが主流となっている。ヒンジはフリップタイプと二つ折りタイプに使われる。カメラ付きの普及で液晶画面が大型化、それを支えるために再び大きくなってきている。
10	携帯電話部品で 世界へ ポリマテック	日刊工業 8 / 7 527	西平社長に聞く：カメラ付きが携帯電話の買い換えを大きく進めている。今後静止画から動画へとサービスはさらに広がる。さらに海外にも急速に広がり始めており、成長が大いに期待できる分野だ。
11	新機能鉄めっき で事業拡大 日本プレテック	日刊工業 8 / 14 528	日本プレテックは04年1月から鉄めっきを施したアルミ合金製の自動車部品を量産する。本社工場で新たな電気めっきラインを近く稼働し、04年に1万個の部品を生産する。
12	パソコン5年ぶ り国内生産 ソーテック	日刊工業 8 / 19 528	ソーテックは約5年ぶりにパソコンの国内生産を始める。10月出荷予定の新製品の一部を国産ベンダーに製造委託する計画。短納期を武器に利益率の高い受注生産(BTO)による直接販売製品を拡大する狙い。
13	妨害電波遮断 誤動作を防ぐ クマヒラ	日経産業 8 / 19 528	セキュリティ機能のクマヒラは外部からの電磁波を遮断して電子機器の誤動作を防ぐ製品を発売した。電子機器を同製品で囲み利用者はドアを通じて出入りする。特殊な樹脂製で、電磁波を防ぐ一方、通気性・光透過性に優れる

1	燃料噴射ノズル MIM一体成形 ミテクノロジー	日刊工業 8/22 529	ミテクノロジーは、MIMで口径30μmという微細な燃料噴射ノズル成形に成功した。噴射口が従来比で10分の1程度になったことで燃料の微粒子化が実現し、燃焼効率の向上と浮遊粒子状物質の低減にもつながる。
2	敗者復活を 適正評価 ストベリーコーポ	日刊工業 8/21 529	ストベリーコーポレーションは新人事制度を立ち上げた。目標に対する成績評価制度を基本とし、評価結果がダイレクトに各社員の年俸に反映するようにした。社員のモチベーションを高めベンチャースピリットを維持する狙い。
3	マグネ合金表面 処理、耐食光沢 電化皮膜工業	日刊工業 8/20 529	電化皮膜工業はマグネシウム合金の耐食性や光沢度を高める表面処理技術を開発した。着色もできるノンクロム陽極酸化処理方法で、塗装と比べて環境への負荷も少なく、工程を大幅に短縮できる。
4	鉄粉の生産 日米で1割増強 神戸製鋼所	日経産業 8/25 530	神戸製鋼所は自動車部品などの原材料である鉄粉の生産能力を2003年度中に1割増強する。主用途である自動車向けの生産が好調なため。日本と米国の生産拠点でそれぞれ生産・搬送ラインの自動化を進め、生産効率を高める。
5	鉛、水銀の使用 全廃へ エプソン	日刊工業 8/26 530	セイコーエプソンは2004年3月末までにICチップなどデバイス品、2005年3月末までにプリンターやプロジェクターなど完成品やユニット品について、鉛や水銀などの化学物質の使用を全廃する。
6	北米大停電 対策調査 加・調査会社	BizTech 8/25 530	カナダのInfo-Tech Research Groupは、北米で先日発生した大停電に関する調査結果を発表した。それによると、IT部門の60%以上が停電の十分な対策を立てていなかった。
7	パソコン国内 生産に重点 日本HP、IBM	日刊工業 8/29 531	日本HPと日本IBMがパソコンの国内生産に重点を置く。変化の激しい消費者ニーズをいち早く汲み上げ、在庫を抱えずに適時、品質の高い製品を供給できる体制を築く。
8	国内回帰じわり アドバネクス 専務の磯辺氏	日刊工業 8/26 531	最近、中国に進出した部品メーカーが日本に戻ってくるケースが出始めていると、生産の“国内回帰”が起きつつあることを指摘している。日本側の生産効率アップで、中国の労働集約型の生産に対抗できる力を持ちつつある。
9	マグネ合金の 高精度切削加工 オークマなど	日刊工業 9/1 532	名古屋工業大学とオークマ、大同メタル工業などは、マグネシウム合金を安全に高精度で切削加工する技術を共同開発した。直径0.1ミリの水滴の周囲に植物性油剤の膜を張った加工液を用いて、潤滑と冷却を両立させた。
10	マグネ合金中国 でプレス加工 AJC	日刊工業 9/1 532	エー・ジェー・シーは、04年から中国合弁工場でマグネシウム合金のプレス加工を始める。中国では携帯電話、パソコン向けなどで同加工の需要増が見込まれ、他社に先駆けて技術移転し市場を確保するのが狙い。
11	プロジェクター 新製品続々 ソニー、三洋等	日経産業 8/27 532	市場が急成長するプロジェクターで新製品ラッシュが続いている。ソニー、三洋電機など4社はそれぞれ新機種を発表した。狭い部屋でも大画面を楽しめる家庭用から、持ち運びが容易な業務用まで品揃えも多様化している。
12	EU環境規制に 対応まず複写機 キヤノン	日本経済 9/2 533	キヤノンは情報機器でEUの有害化学物質規制に適合した製品を商品化する。第一段として、11月に世界に先駆けて同規制に対応した複写機・プリンターの複合機を発売する。
13	中国初の金属表 面処理工業団地 ハベル・ジャパン	日刊工業 9/9 533	中国初の金属表面処理工業団地「無錫金属表面処理科技工業園区」が江蘇省無錫市郊外に10月オープンする。団地側で污水处理場を完備し、進出企業の投資コストを大幅に削減できるようにした。

1	”国内”見直し 工場改革 富士通アイテック	日刊工業 9 / 4 5 3 4	パソコンの国内生産が見直されている。製造技術の標準化に伴い、安い人件費で大量生産する中国・台湾受託メーカーが台頭しているが、納期・品質といった顧客サービスの側面に加えて在庫圧縮によるキャッシュフローの改善が重視される
2	マグネ合金 プレスに参入 三菱製鋼	日刊工業 9 / 10 5 3 4	三菱製鋼は、マグネシウム合金のプレス事業に参入する。宇都宮製作所で8月にマグネシウム合金の厚板を薄板に加工する圧延機を導入した。今後は、10月に箔用圧延機、11月に量産用プレスを順次導入し、量産のための準備を本格化する
3	青森に電解研磨 の新工場 マルイ鍍金	日刊工業 9 / 9 5 3 5	マルイ鍍金工業は、青森県に電解研磨の新工場を建設、9月末に稼働させる。現地に立地する真空装置メーカー向けに、チャンバーやタンク等の内面を加工し、最終的に液晶メーカーに納入する。
4	リサイクル残液 で無電解めっき 森田化学など	日刊工業 9 / 9 5 3 6	芝浦工業大学と森田化学工業はフッ化水素酸を使ったガラスリサイクル法と、その時に残る金属イオン溶液を活用した無電解銅めっき技術を開発した。ガラスのリサイクルに続いて銅めっきが可能になる。
5	マグネ合金基材 向け新塗材投入 武蔵塗料	化学工業 9 / 11 5 3 6	武蔵塗料は、マグネシウム合金基材の表面光沢はそのままに、密着性や耐食性に優れるワンコートクリア塗料と、マグネシウム成形時のヒケ、研磨跡の隠蔽性に優れる特殊プライマーを相次ぎ開発、本格投入した。
6	プロジェクター 家庭用急成長か エプソンが火付	日刊工業 9 / 12 5 3 7	家庭用プロジェクター市場が、急成長する可能性が出てきた。その火付け役がセイコーエプソン。業務用で使った価格破壊戦略を家庭用にも導入、市場の底上げを狙っている。プロジェクター大変革が始まった。
7	燃料電池ノート パソコン試作 NEC	日刊工業 9 / 18 5 3 7	NECは発電効率を従来比2割アップした燃料電池を開発、これを搭載したノートパソコンを試作した。実装技術も改良し、パソコン駆動に必要な燃料電池モジュール体積を従来よりも2割小さくできた。
8	パソコンの国内 生産で在庫の リスクを解消	日刊工業 9 / 18 5 3 8	日本HPのコンピュータ製品生産・物流拠点「昭島事業所」では、国内生産に切り替えたことで「他社の戦略に振り回されなくなった。納期ぎりぎりまで製造しないで済む」。組立工程はすべて協力会社1社に委託している。
9	ハンダ槽を傷め ない鉛フリー 日本スペリア	日経産業 9 / 12 5 3 8	日本スペリア社は、ハンダ槽を傷めない鉛フリーハンダの拡販に乗り出す。槽に穴が開く事故が多発しているため、啓蒙活動を強化すると共にユーザーに対して積極的に採用を働きかける。
10	油圧ショベル 海外需要拡大 日立建機	日刊工業 9 / 18 5 3 8	日立建機は油圧ショベルの主力生産拠点である土浦工場が生産していた2部品を、有力外注先に全面移管した。パイロットバルブはコモダ、サイドフレームとセンターフレームの溶接工程は大岸製作所(足立区)に移した。
11	マグネ合金ネジ 軽量で高比強度 丸エム製作所	日刊工業 9 / 18 5 3 9	丸エム製作所は住友電工スチールワイヤーと共同で、軽量で高い比強度を持つマグネシウム合金ネジを開発した。マグネシウム合金の需要は伸びているがその結晶構造から通常工程ではネジへの加工が難しかった。
12	コモンレール向 けの耐高圧管 臼井国際産業	日経産業 9 / 26 5 4 0	自動車用配管を製造する臼井国際産業は、ディーゼル車用の最新の燃料噴射装置向け耐高圧管の生産能力を拡大する。欧米での需要増が見込めるため、同社はこの用途の耐高圧管で世界最大手。
13	デル、パソコン で独り勝ち、価 格競争力が進化	日経産業 9 / 25 5 4 0	東芝とソニーが世界のパソコン市場で苦境。米HPが仕掛けた価格競争が原因だが、そのHPもパソコン事業は赤字。米デルの独り勝ちである。来年で創業20年となる。進化を続けるデル・モデルにライバルたちがついていけない。

1	日立的改造、 自動車部品を 中核事業に	日経産業 9 / 26 541	庄山社長は自動車部品事業をグループの重点事業として明確に位置付けた。このトップの方針に呼応し、自動車部品事業を受け持つオートモーティブシステムグループは組織の壁を破って技術者をかき集めた。
2	白金鉄粉5ナノ 磁気記録用に 同和鉱業など	日経産業 9 / 29 541	同和鉱業は東北大学大学院と共同で、粒子の大きさが5ナノメートルの白金鉄を製造することに成功した。磁性を持つ粉末で、現在最も小さい磁性粉の1/10程度の大きさ。1TB容量を持つ記録媒体の開発を目指す。
3	新生ムネカタが 始動、アーク傘 下の刈刈生かす	日刊工業 10 / 1 542	金型とプラスチック成形品を生産する中堅企業、ムネカタと東北ムネカタが10月1日で合併。社名は歴史ある「ムネカタ」を踏襲した。新資本金1億円のうち40%を試作品製作最大手のアークが持ち、連結子会社入りする。
4	精密機械部品に 明るい兆し 設備需要増加	日刊工業 9 / 29 542	IT不況のあおりを受け、長期低迷していた精密機械部品メーカーがようやく息を吹き返し始めた。液晶、デジタル家電の急成長に加え、自動車関連の設備投資が底堅く、工作機械も中国などアジア向けの輸出が活発化。
5	車・携帯向けに めっき工場増設 塚田理研	日刊工業 10 / 1 543	塚田理研工業は、環境負荷の小さいめっき処理ができる工場の増設に踏み切る。自動車や携帯電話、液晶テレビ関連などからの受託が相次ぎ、対応が限界に達しているため。約3億円を投じ、工場建屋のほか全自動めっき装置を導入。
6	エッチング廃液 からめっき原料 鶴見曹達	化学工業 10 / 2 543	鶴見曹達は、プリント基板分野におけるリサイクル事業を強化する。従来から、使用済みエッチング液を回収・精製して製鋼原料などの銅製品を生産してきたが、新たに開発しためっき用易溶性酸化銅粉の市場開拓を本格化する。
7	RoHS指令、 特定化学物質の 閾値の見込み	化学工業 10 / 3 544	2006年7月から施行される欧州のRoHS指令で、議論が進んでいる特定化学物質の閾値は、Cdが0.01%、その他5物質が0.1%となる見通しが強まった。既に施行されているELV指令との整合化が強調された模様。
8	埼玉で創業を アピール 上田埼玉県知事	日刊工業 9 / 29 544	埼玉県は、沖縄県に次いで県民の平均年齢が若い県、いくらでも企業を興せるエネルギーがある。首都圏で東京に近く、東日本の大半の地域に窓口として容易にアクセスできる地の利がある。また歴史的にも起業家スピリットがあった。
9	硬質クロムめっ き処理能力倍増 フジコー	日刊工業 10 / 3 545	フジコーは、硬質クロムめっき、無電解ニッケルめっき、アルマイト処理の加工能力を倍増させる。11月末までに3ヶ所に分散している工場を本社工場に集約した上で能力を増強する。
10	手のひらサイズ の燃料電池 東芝	日刊工業 10 / 3 545	東芝はモバイル機器向けに手のひらサイズの燃料電池を開発した。出力1W、容積140ccで重量130gと小型化した。高濃度メタノールを25cc入れた場合、約20時間の発電が可能という。
11	燃料噴射装置を 原付きにも搭載 ホンダ	日刊工業 10 / 6 545	ホンダは4ストローク50ccエンジン向けに電子制御燃料噴射装置を開発、来春発売予定の新型スクーターから搭載する。50cc向けは世界で初めてという。07年末までにすべての国内販売スクーターに同装置を搭載する計画。
12	建設機械業界 海外拡大で 「冬」を脱出	日刊工業 10 / 7 546	建機業界の景況は4-5年つづいた「冬の時代」を脱し、ようやく回復基調に入った。回復の原動力は中国を中心とした海外需要の拡大。一方で、建機メーカー各社を苦しめてきた国内需要の落ち込みは下げ止まったが、今後も低水準。
13	燃料電池車販売 2020年100万台 米GM	日刊工業 10 / 7 546	米GMは、2020年までに燃料電池車を累計100万台販売する方針。2010年までに発売する。当初から利益を出し、商業的に成り立たせる。ハイブリッドカーは部品が格段に多く、燃料電池車までのつなぎの技術と位置付ける。

1	金型再生事業を 拡大 桑名商事	日刊工業 10/8 547	桑名商事は部分肉盛りめっきによる金型再生事業の拡大を目指し、めっき皮膜や金属の表面形状・組成の分析サービスを始める。10月中旬に機器分析室を改修・稼働、新たに導入する分析装置などにより、自社の品質保証体制を強化する
2	第3世代携帯 6機種発売 au	日経産業 10/7 547	KDDIのauは今月下旬から年末にかけ、第3世代携帯電話「CDMA2000 1x」を新たに6機種発売する。GPSを使った高速ナビゲーション付きの端末や、FMラジオチューナー付きの端末などをそろえた。
3	燃料電池車 商業的にも有効 米GM副社長	日刊工業 10/7 547	燃料電池（FC）車は、技術的だけでなく商業的にも有効だと示したい。FC車をたくさん売るには、顧客が買える値段で我々も利益を上げることが必須条件、2010年から2020年の間に100万台を販売し利益を生み出す最初のメーカーに。
4	鉛全廃しスズに 切り替え フェアチャイルド	化学工業 10/10 548	フェアチャイルドセミコンダクターは、同社が生産するパワー系の半導体をはじめ、メモリーなど順次鉛フリー化を実現、来年6月までには製品中の鉛を全廃する。ソニーから「グリーンパートナー」の認定を受けた。
5	金属噴射方式の プリンター開発 名古屋大学	化学工業 10/9 548	名古屋大学の研究開発チームは、放電式金属噴射プリンターの開発に成功した。実用化の目処を得たことからベンチャー新会社「メジェップ」を設立、今後この技術を使ったプリント基板製造などでビジネス展開する。
6	熱処理で 金属に魂 朝日熱処理工業	日刊工業 10/9 548	少量多品種に特化した高度な技術開発を進めている朝日熱処理工業。中でも得意とするのが、窒素を金属に浸透させて強度や平滑性、耐磨耗性を高めるガス軟窒化処理「SNプロセス」技術である。
7	燃料電池市場 3660億円に 富士経済	日経産業 10/10 549	調査会社の富士経済は、燃料電池関連の国内市場規模は2020年に3660億円に達するとの予測をまとめた。最大の需要先と見られる自動車に加えて、住宅向けの定置型も普及が進むと見ている。
8	バイワイヤ利用 の燃料電池車 米GM	日刊工業 10/7 549	GMがアジアで初公開したバイワイヤ技術を用いた燃料電池車「ハイ・ワイヤー」は、ハンドル代わりのスティックがアクセルもブレーキも兼ねる。すべての操作はワイヤを通じ電気信号でデジタル制御する。
9	机の上の工場 無限の可能性 中国に勝つ	日経産業 10/8 549	幅2メートルのデスクトップファクトリーで自動車用圧力センサーを月15万個組み立てる長野計器の工場。1台当たりの占有スペースはB5版ノートと同じ。全7工程を机の上だけでこなす。
10	鉄粉2割増産 自動車部品向け JFEスチール	日経産業 10/16 550	JFEスチールは主に自動車部品に使う鉄粉を2004年度を目処に約2割増産する。生産拠点の東日本製鉄所に約3億円を投じ、設備を改良する。土壌浄化など新たな用途が増えていることから積極的に投資する。
11	金属ナノ粒子で 微細電子回路 大阪市立工研他	日刊工業 10/16 550	大阪市立工業研究所は、大研化学工業と共同でライン・アンド・スペースが30μmの電子回路作製が可能な、低コストの金属ナノ粒子ペーストを開発した。粒子径数ナノから数10ナノメートルの金属ナノ粒子が主成分。
12	めっき子会社を 売却 荏原	日本経済 10/16 550	荏原はめっき薬品・装置を手掛ける合弁子会社の荏原ユーザライトを、経営陣による企業買収（MBO）方式で売却した。環境装置など中核事業との関連が薄い部門を切り離し、経営資源を本業に集中する。
13	電磁バレル研磨 機で携帯部品を イマハシ	日刊工業 10/17 551	イマハシ製作所は電磁バレル研磨機の用途拡大に乗り出した。電磁気力で液体中の研磨材を攪拌する機械。貴金属・宝飾品、電子・機械部品のバリ取り分野に加え、携帯電話の外装部品など表面仕上用にも売り込む。

1	卓上型工場 2機種開発 DTF研究会	日刊工業 10/17 551	長野県諏訪地域の製造業者など14社が参加するデスクトップ・ファクトリー研究会は「卓上型工場」のモデル機種2機種を開発した。試作機のデモを通してデスクトップ・ファクトリー(DTF)の概念の普及を進める。
2	放熱促すシール を開発 沖電気	日経産業 10/15 552	沖電気工業は電子部品・機器の表面に装着することで放熱を促す専用シールを開発した。液体のセラミック放熱塗料をシールに加工したもので、ユーザーははさみで自由な形に裁断し、高性能コンピュータの冷却用などに応用できる。
3	中国でめっき 事業加速 荏原ユージライト	日刊工業 10/21 552	荏原ユージライトは中国市場でめっき薬品や装置の販売を加速する。中国は自動車大手が多数工場進出し、プラスチックめっき薬品の需要が高まっているほか、携帯電話やパソコンの基板薬品需要も期待できる。
4	DPF事業に 参入 ボッシュA J	日刊工業 10/21 553	ボッシュA Jは粒子状物質減少装置(DPF)事業に参入する。ボッシュグループの世界戦略に沿う格好で、新長期規制施行後も、さらに厳しくなる「ポスト新長期規制」に対応する。
5	以外に深刻な オフィスの 電波漏えい問題	日経ネット 10/20 553	オフィス用の電磁波シールド製品が登場した背景には、目に見えない電波が外に漏れたり中に侵入して、コンピュータ・システムに悪影響を及ぼすという現象がある。無線LANの電波は大部分がコンクリートの壁やガラス窓を通過
6	マグネシウムを プレス加工 モリテック	日経産業 10/22 554	新潟県の工業技術総合研究所から支援を受け、マグネシウムのプレス加工技術を確立した。東北パイオニアを紹介されたのがきっかけで、スピーカー部品の生産を始めた。プレスから金型、つくり方、表面処理を一貫して手掛ける。
7	特殊表面処理 技術PR レイデント工業	日刊工業 10/28 555	レイデント工業は「レイデント処理」と呼ばれる特殊表面処理技術をアピールする。この処理技術はこれまで、半導体や液晶など製造装置の重要パーツ部分での表面処理に採用され、防錆や耐磨耗などの特性で評価を集めている。
8	マグネ加工で 成長収める 宮本製作所	日刊工業 10/29 555	利幅の薄くなった仕事に見切りをつけ、競争相手の少ないニッチの世界に飛び込み成功を収めた宮本製作所は、マグネシウム加工の分野に5年前に参入。自分たちで手に負えない仕事は中小企業同士の連合でカバーしている。
9	8月の金属熱処 理生産16ヶ月 連続で増加	日刊工業 10/31 555	金属熱処理業界が高水準の生産を続けている。日本金属熱処理工業会によると会員企業の生産高は、8月まで16ヶ月連続で前年同月を上回った。自動車業界の好況に連動して上昇している。
10	熱処理で 疲労寿命4倍 NTN	日刊工業 10/24 555	NTNは軸受け鋼に2次焼入れし、結晶粒を小さくすることで製品を長寿命化する特殊な熱処理方法「FA処理」を開発した。鋼材の結晶粒が小さくなると疲労強度が増す結晶粒微細化強化に着目した処理。
11	下請法違反で いすゞが公取委 から是正勧告	日刊工業 11/3 556	いすゞ自動車の下請代金支払遅延等防止法に違反したとして、公正取引委員会から是正勧告を受けた。02年度は自動車メーカーを含めた全業種で1426件の是正勧告があった。購買側の優越的立場が改めて浮き彫りになった。
12	2次加工不要で 50μm均一層 フッカクローム	日刊工業 10/31 556	フッカクロームは50μmを基準に±0.005μmの高精度で、均一にクロームめっきできる新技術の開発に成功した。この技術を使えば2次加工は不要でしかも高精度なため、ユーザーは加工済み製品をそのまま使える。
13	マグネダバットの バリ取り装置 クロイツ	日刊工業 11/4 556	クロイツはマグネシウムダイカスト用バリ取り機を発売した。最大4本の工具を保持できるタレットを備え、複数のバリ取り工程を1台でできる工程集約型とした。

1	プラ用塗料 未曾有の特需に メタル調ベース	化学工業 11/5 557	地上波デジタル放送への移行に伴い、プラスチック用塗料業界が未曾有の特需喚起と期待を寄せている。テレビの買い替えが起きるためメタル調の筐体、外装デザイン、さらには電磁波シールドなどの機能も両立する塗料が求められる
2	めっき代替銀鏡 塗装事業を拡大 アドバンス	日刊工業 11/4 557	アドバンスはめっきに代わるコーティングである銀鏡塗装事業の拡大に乗り出す。全国を9ブロックに分け、各ブロックごとに複数のパートナー企業を募って地域密着型の普及を図る。
3	ノートパソコン のマグネ再生 富士通	日刊工業 11/11 558	富士通では自社商品に使用したマグネシウム合金の再利用化を進めている。回収した事業系ノートパソコンや筐体の製造過程で発生する不要部分のマグネシウムを再資源化する事で、環境負荷低減を目指している。
4	メタリック樹脂 用の着色剤 サンケミ	化学工業 11/7 558	マスターバッチや樹脂用着色剤の中堅メーカー、サンケミは、塗装レスでカラーメタリック色調が容易に得られる樹脂用着色剤の市場展開を一段と加速する。めっきや塗装レスで輝度感の高いメタリック感が得られる。
5	鉛レス合金生産 月600トン体制 サンエツ金属	日刊工業 11/13 559	サンエツ金属は04年3月までに、鉛レス合金の生産能力を現在の3倍程度の月産600トン体制に拡大する。RoHS指令対応で電気・電子機器メーカーが鉛レス合金の採用を増やしていることに対応するのが狙い。
6	日系めっき企業 誘致に本腰を入 れる中国	日刊工業 11/10 559	中国初のめっき・塗装業向けの専門工業団地「無錫金属表面処理科技工業園区」が日系企業の本格誘致に乗り出した。同団地は江蘇省環境保護局の許可に基づく中国唯一の専門団地で、環境保全設備への投資も不要。
7	表面に光沢、塗 装不要の成形 ムネカタ	日刊工業 11/14 560	ムネカタは超臨界流体を利用したプラスチック成型加工法を開発した。従来法に比べ成形品表面のざらざらなどの外観不良を改善し、光沢のある成形品を可能にして塗装の必要もなくなった。
8	快削鋼から鉛を 除去 新日鉄	日経産業 11/13 560	新日本製鉄は鉛を使わずに切削しやすくした棒鋼・線材を開発、来春から量産する。複雑な形状の自動車・OA機器部品に使う鉛入り快削鋼に代わり、鉛を使わない鋼材の需要が高まると判断した。
9	世界最軽量 ノートパソコン ソニー	日刊工業 11/13 560	ソニーはWindows XPを搭載したパソコンとして世界最軽量となる785gのノートパソコンを発売する。外装には積層カーボンファイバーやカーボン入りプラ成形品にニッケル加工した物を採用した。
10	大型トラックの 中国需要が急増 現地生産の準備	日刊工業 11/18 561	中国へのトラック輸出が好調である。08年の北京五輪や2010年の上海万博を前にした建設工事ラッシュで、ミキサー車などに使われる大型トラックへの需要が急増している。
11	焼結部品生産を 日立粉末へ委託 ジャトコ	日経産業 11/20 562	変速機メーカーのジャトコは、内製してきた焼結部品の生産設備を日立粉末冶金に売却する。2005年9月にかけて段階的に移設する。専門の日立粉末に部品生産を委託する事で主力の変速機事業に集中する方針。
12	ナノ多層皮膜の 技術を開発 帝国ピストン	日刊工業 11/21 562	帝国ピストンリングは自動車エンジン部品であるピストンリング向けにナノレベルの多層皮膜技術を開発した。窒化クロムと窒化タングステンを数十ナノメートル間隔で交互に積層する事で耐磨耗性や耐焼き付き性を高める。
13	電磁波シールド 用樹脂コート剤 アイカ工業	化学工業 11/25 562	アイカ工業は完全水系の電磁波シールド用樹脂コート剤を開発した。水系のため溶剤系に比べ環境に優しいほか、コート剤中に添加している金属微粒子の沈殿や酸化を抑える革新技术を導入しているのが特徴。

1	記録型DVD用 光ピックアップ 下げ渋る	日経産業 11/26 563	パソコン用光ディスク装置やDVDプレーヤーなどの基幹部品である光ピックアップのうち、主力品の値下がりが限定的になっている。中でも記録型DVD用の下げ渋りが目立つ。
2	樹脂製の電磁波 吸収材 アイカ工業	日刊工業 11/28 563	アイカ工業はプリント配線基板などに塗布する樹脂製の電磁波吸収材を開発した。小型電子機器が増え、高周波の電磁波ノイズの発生が課題となる中、発生源の電子部品に直接塗布するだけで簡単に電磁波吸収できる。
3	鉛不使用の黄銅 合金技術供与 三宝伸銅	日経産業 12/1 564	三宝伸銅工業は独自開発した、鉛を使わない黄銅合金の技術供与を始める。まず欧州の大手伸銅メーカーにライセンス供与し、国内の大手伸銅メーカーにも対象を広げる。
4	鉛フリーめっき リードフレーム 住金鋳パツカヅ	化学工業 11/28 564	住友金属鋳山パッケージマテリアルズは、東南アジアで鉛フリーめっきの半導体用リードフレームの量産を開始した。リードフレーム全面にパラジウムをめっきするもので、従来に比べてめっき厚みを半分以下にできる。
5	燃料電池・バイ オなど6分野で 総合戦略	日本経済 11/25 564	経済産業省は燃料電池やバイオテクノロジーなどの6分野を「日本が世界を席卷できる産業」と位置付け、これらの産業が日本経済を牽引する総合戦略を策定する。業界再編の必要性や政府の支援策などを洗い出す。
6	高耐磨耗性めっ き実用化へ連携 長野県岡谷市	日刊工業 12/3 564	長野県岡谷市の中小企業6社で組織するリアネット協同組合は、諏訪東京理科大と連携し、耐摩耗性に優れためっき、塗料の研究に取り組む。セラミックスを混ぜ合わせることで、これまでより硬度の高いめっきなどの実用化を狙う。
7	ディーゼル燃料 噴射装置 ボッシュA J	日刊工業 12/3 565	ボッシュA Jは、親会社の独口パート・ボッシュが中国に合併で設立する燃料噴射装置会社への出資を決めた。急増する現地需要に対応するのが狙い。中国と合わせアジア地域で燃料噴射装置の事業拡大を図る意向。
8	中国進出でプロ ジェクト発足 曙ブレーキ	日刊工業 12/5 565	曙ブレーキ工業は中国進出に向け「中国プロジェクト」を発足した。同プロジェクトで05年末のドラムブレーキ組立て生産開始を目指す。広州周辺に単独で進出する意向だが、日系、欧米系との合併も考える。
9	ナノ銀粒子配合 低摩擦の潤滑油 浜田通商	日経産業 12/2 565	潤滑剤開発の浜田通商は、ナノテクノロジーを応用して量産した超微粒子状の銀を混ぜた潤滑油を発売する。金属の表面にある凹凸を粒子状の銀が効率的に埋め、ボールベアリングのように機能、摩擦率を低減する。
10	ストリームに 直噴エンジン ホンダ	日経産業 11/28 565	ホンダはミニバン「ストリーム」に直噴エンジンを搭載する。電子技術で燃料噴射量や噴射の時期を精密制御し、燃料を効率的に燃焼させることで排ガス量を低減、燃費を改善した。
11	中古建機の輸出 を強化 日立建機トレ	日経産業 12/3 566	日立建機の商事子会社、日立建機トレーディングは中古建設機械の輸出事業を強化する。日立建機の海外販売網との連携によるアフターサービスや海外調達などを拡充し、中国を中心とするアジアなどの中古建機需要急増に対応する。
12	デカBDEは 使用を継続 EU環境評価	化学工業 12/8 566	欧州連合が進めている化学物質のリスクアセスメント評価で、このほど難燃剤に使用されるデカBDEの使用継続を結論付けた「EU環境リスク評価報告」がまとまった。
13	コモンレール式噴射 装置フォードに デンソー	日刊工業 12/9 566	デンソーは05年からディーゼルエンジン用燃料噴射装置を米フォード・モーターに供給する。供給先はフォードの欧州工場、デンソーのハンガリーの生産拠点からコモンレール式の噴射装置を供給する。